

教職員の勤務実態調査について

調査経緯： 国による教員勤務実態調査（平成 28 年度）の集計（速報値）では、10 年前と比較して小・中学校の教職員の勤務時間が増加し、長時間労働が問題となっている。

本市においては、これまで教職員の勤務時間について調査を行ったことがなかったため、実施することとした。

調査目的： 教職員の勤務実態を把握し、その結果に基づいた有効な対策を検討し、教職員が子どもと向き合う環境づくりの推進を図る。

教職員が勤務実態を客観的に把握することによって、健康面も考えながらワーク・ライフ・バランスの視点を取り入れた働き方について考えるきっかけとする。

調査対象： 小学校及び中学校の校長、教頭、総括教諭、教諭（再任用・臨任を含む）、養護教諭（再任用・臨任を含む）、栄養教諭・学校栄養職員（臨任・市費を含む）、事務職員（再任用・臨任を含む）。

調査数： 小学校 3 校 中学校 3 校
小学校教職員 72 人 中学校教職員 103 人

調査期間： 平成 29 年 6 月 22 日（木）～ 7 月 19 日（水）〔 4 週 28 日間 〕
※出勤した場合は、休日（土・日・祝日）も対象

調査方法： ○教職員各自が配付されたカードを出勤時と退勤時にカードリーダーにタッチし、勤務時間をデータで集計。
○出張などで退勤時にカードのタッチができない場合や、退勤時にカードのタッチを忘れた場合などは、後から時間を入力。
○平日は、8 時 15 分から 16 時 45 分までの勤務時間を除いた時間を超過勤務時間として算出。
○休日は、全て超過勤務時間として算出。
○役職や職種ごとに分類せず、全ての対象教職員の勤務時間数から平均値を算出。

今後の対応： 調査結果を受け、今後、各学校へヒアリングを実施予定。
ヒアリング結果から長時間勤務の原因を分析し、国の動向も捉えながら役職等に
応じた対策を検討し、実施していく。

教職員の勤務実態調査結果

平成29年6月22日(木)～7月19日(水) 4週 28日間(平日19日、休日9日)

[時間数は教職員1人あたりの数値]

学校 (対象教職員数)		上段: 平日1日の平均 超過勤務時間	上段: 休日9日間の出勤率 (出勤日数/休日の延日数)		
		下段: 平日19日間の平均 超過勤務時間 ①	下段: 休日9日間の平均 超過勤務時間 ②	28日間の平均超過 勤務時間 ①+②	28日間で超過勤務 80時間以上の人数
小学校	A小学校 (18人)	2時間27分	9.7% (14日/144日)		
		49時間10分	3時間09分	52時間19分	3人(17%)
	B小学校 (21人)	2時間35分	2.6% (5日/189日)		
		49時間16分	44分	50時間00分	3人(14%)
	C小学校 (33人)	2時間17分	9.8% (29日/297日)		
		43時間33分	4時間03分	47時間36分	3人(9%)
	全体 (72人)	2時間25分	7.6% (48日/630日)		
		46時間37分	2時間52分	49時間29分	9人(13%)
中学校	D中学校 (20人)	3時間37分	47.2% (85日/180日)		
		69時間00分	30時間03分	99時間03分	13人(65%)
	E中学校 (32人)	3時間54分	23.3% (67日/288日)		
		74時間24分	15時間55分	90時間19分	18人(56%)
	F中学校 (51人)	3時間43分	42.5% (195日/459日)		
		70時間51分	32時間16分	103時間07分	34人(67%)
	全体 (103人)	3時間46分	37.4% (347日/927日)		
		71時間36分	26時間45分	98時間21分	65人(63%)

* 28日間のうち平日の日数は19日、休日の日数は9日。ただし、A小学校については、休日に1日勤務日があったため平日20日、休日8日で算出。